

シリーズそもそも 国保制度

今回、自治体が保険者になつて、国民健康保険制度（自治体国保）の保険料算定について解説します。

保険料の算定

時代錯誤の仕組み

負担率が重くなる

保険料負担が右肩上がりで重くなっていることがわかります。

負担率が重くなっているのは、加入世帯の平均所得が大まかに低下しているのに、平均保険料額はほぼ横ばいである

**負担率が重
きになります。**

2000年度以降の加入世帯の平均保険料額（調定額）と負担率（平均所徴に対する平均保険料額の割合）の推移です。

ためです。たとえば、16年度の平均所得は一・338万8千円で、06年度と比べて10年間で2割近く減っています。ところが、平均保険料額は14万4870円から14万2900円とわずかに下がっているだけです。

しかも、所得階級別に負担率(16年度)をみると、100万円以上の世帯では3・3%ですが、30万円未満の世帯では18・9%と6倍近くも重い負担となっています。

ためです。たとえば、16年度の平均所得は一・338万8千円で、06年度と比べて10年間で2割近く減っています。ところが、平均保険料額は14万4870円から14万2900円とわずかに下がっているだけです。

しかも、所得階級別に負担率(16年度)をみると、100万円以上の世帯では3・3%ですが、30万円未満の世帯では18・9%と6倍近くも重い負担となっています。

とを
といふ
国家
に保
に應
額に
額の
る「
を負

の大きい「
ない」「
う仕組

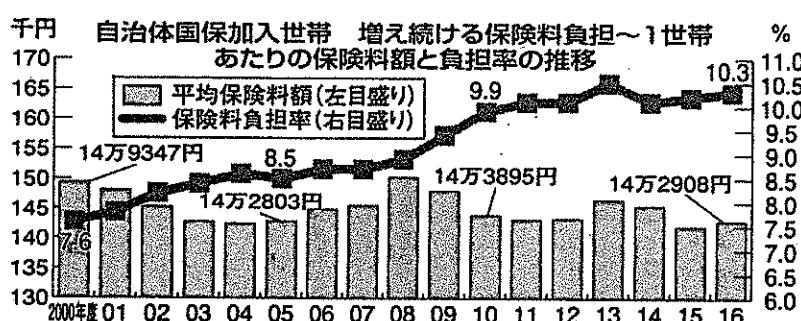
ます。
な原因
均等割
みの存

が、国保」「平等割」の在です。

低所得者に対する保険料の減免制度が適用されるとほ
え、国保の保険料算定の仕組みは、低所得者に過酷なもの

「均等割」、「均等割」と「平均割」は、所持の有無や高さに関係なく、負担額が算定されます。

しかし、「均等割」は、家族が多いほど負担額は引き上がります。古代から近世にかけて、人間の頭数で課税した悪



各年度の厚生労働省「国民健康保険実態調査」から作成
平均保険料額は平均保険料調定額。保険料負担率は平均所得に対する平均保険料額の割合

「均等割」と「平等割」は廃止して、保険料算定の仕組みに残る不公平をただすことが求められて います。